

2021.1.24 年間第三主日

ヨナとイエス

マルコによる福音 1:14-20、ヨナ書 3:1-5,10

ヨナ書 3:1-5,10

主の言葉が再びヨナに臨んだ。「さあ、大いなる都ニネベに行って、わたしがお前に語る言葉を告げよ。」

ヨナは主の命令どおり、直ちにニネベに行った。ニネベは非常に大きな都で、一回りするのに三日かかった。ヨナはまず都に入り、一日分の距離を歩きながら叫び、そして言った。

「あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる。」

すると、ニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者も低い者も身に粗布をまとった。

神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくだすのをやめられた。

マルコ 1:14-20

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。

説教

ヨナは神にニネベ救済を命じられて、逃げ出しました。そして一度死んで、

神よって救い出され、再度神に命じられてニネベに行って福音を告げます。

「あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる。」ヨナ 3:4

あからさまな直接的な福音ですが、これを聞いたニネベの民は悔い改め、神の憐れみを受け、滅びをまぬがれました。

神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくださのをやめられた。ヨナ 3:10

ニネベとはアッシリア帝国の首都で史上はじめての世界帝国です。オリエントの片隅の弱小イスラエルもアッシリアの植民地とされます。イスラエル人のヨナは当然のように神に抗議します。

彼は、主に訴えた。「ああ、主よ、わたしがまだ国にいましたとき、言ったとおりではありませんか。だから、わたしは先にタルシシュに向かって逃げたのです。わたしには、こうなることが分かっていました。あなたは、恵みと憐れみの神であり、忍耐深く、慈しみに富み、災いをくだそうとしても思い直される方です。」ヨナ 4:2

敵に塩を送るようなことは味方（イスラエル）への裏切りだからイヤだった、だからわたしは逃げた、ヨナの言い分はこうでした。もっともな言い分です。そしてだだをこねるヨナを神がなだめておさまりをつけてヨナ書はとじます。さて、イエスもヨナと同じように神の命令で福音を告げます。ヨナの場合は敵国アッシリアの首都ニネベに告げよという命令でした。イエスの場合はイスラエルの首都エルサレムが目的地のようです。イエスがヨナと違うのの一つには神の命令にひるむことなく従ったことです。また、自分一人だけで実行するのではなく弟子を集めて小さいながらもイエス福音軍団をつくることから始めています。シモンとアンデレには「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」といい、ヤコブとヨハネも呼びつけて「この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った」とマルコの証言ではイエスはあっという間に4人を召しだしました。イエスの宣教は首都エルサレムからはるかに離れた僻地ガリラヤから始まりました。また、シリア、サマリアにもイエスは足をはこんでいます。

福音宣教はおもにイスラエルに対して実施されました。そして福音書の伝えるところではエルサレムでの十字架に刑でおわります。イエスの福音・救いの内容は病気治しや飢えを満たすことだけにとどまらず永遠のいのちにまで至っています。

ヨナはとうごまの木の下で「生きているよりも、死ぬ方がましです」と神にむかってごねていました。イエスは十字架の上でこういいました。

イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。ルカ 23:46

イエス息を引き取ったあと、三日目によみがえり地上に40日間とどまりました。そして天にもどられ、神の右に座していると福音書は証言しています。「あと四十日すれば、二ネベの都は滅びる」とヨナが二ネベの町に告げ知らせた旧約の福音と福音書が伝えるイエスがやってきたこと・事跡を比べ、きょうの福音、イエスの宣教のはじめを再度味わってみましょう。
